

表紙の言葉

「弘前公園のさくら」

日本のさくら名所100選に選ばれる全国屈指の「弘前城のさくら」はソメイヨシノ、シダレザクラ、八重桜など約50種2600本が咲き誇ります。

満開の頃はもちろん見事です、花びらが舞うころ、お濠の水面が桜色に染まりいつまでも佇んでいたい、そんな幻想的な情景をみせてくれます。



地域連携センター
課長

斉藤 容子



研修会レポート 緩和ケア研修会

厚生労働省が定めた“がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針”に準拠した、当院主催の緩和ケア研修会を去る1月19日・20日の2日間で実施しました。5回目となる今回の研修会には医師15名、看護師等のメディカルスタッフ14名が参加し、講義のほかグループワーキングといったプログラムに取り組みました。

1日目にはコミュニケーションスキルを向上させるプログラムが組まれ、自分の職種以外の役柄(医師、患者、患者家族)を演じ、“がん”に関する悪い知らせを伝えるシナリオを通じてそれぞれの心境を理解し、がん終末期の患者さんへの接し方を改めて考えさせられる内容となっていました。

2日目には小グループに分かれて、実際の症例を題材とした終末期医療の在り方をチームで検討するプログラムに取り組み、それぞれの職種の立場から活発な討議がなされ、緩和ケア医療におけるチーム医療の在り方について各々が考える一つの機会として、合同カンファレンス等に活かせる内容であったのではないかと思います。

2日間で12時間という非常にタイトな研修会ですが、がん医療に携わる方には是非受講していただき、日々の診療にお役立ていただけると幸いです。

地域連携センター 三上 貴弘

やさしさサロン かたろーね

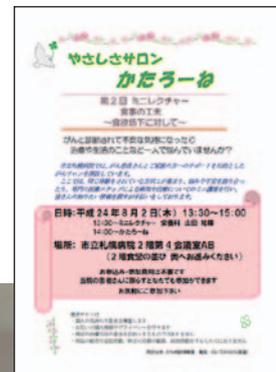
H24年4月より、がん患者と家族の方へのサポートを目的とした、がんサロンの開催に取り組み始めました。ネーミングは「やさしさサロン かたろーね」、これは当院の基本理念をもとに、関係スタッフで検討し決めました。ここでは、専門の医療スタッフが病気や治療、療養に必要な知識についてミニレクチャーを行い、参加者の知りたい情報を探すお手伝いをする事や、同じがんの体験をされている方向士が集まり、悩みや不安を語り合うことを通して、患者さんが病気をもちながらもより良く自分らしく生きることを支援していくことを目的としています。今年度は新たな試みでもあるため3回(5・8・11月)の実施とし、回毎の参加人数は10名前後でした。アンケートでは、「患者さん自身の話が聞けて良かった」という意見や「もっとたくさんの患者さんから体験談を聞きたかった」という意見もありました。

また、今後もサロンへの参加を希望したいという回答や、レクチャーのテーマについての要望もいただいていますので、次年度の参考にしながら、参加者のニーズに応えられるような、そして患者さんや家族のためのサロンとなっていくことを目指し、関係スタッフとともに取り組んでいきたいと思っております。

緩和ケア認定看護師
松山茂子

日時	テーマ
5月31日(木)	緩和ケアって! がん患者さんのために
8月2日(木)	食事の工夫 ～食欲低下に対して～
11月15日(木)	がん治療と口腔ケア

【平成24年度に開催されたやさしさサロンかたろーね】



市立札幌病院ホームページもご利用ください。 <http://www.city.sapporo.jp/hospital/>

編集・発行

市立札幌病院 地域連携センター運営委員会
(事務局：札幌市病院局 地域連携センター)
〒060-8604 札幌市中央区北11条西13丁目
電話 代表 (011) 726-2211
FAX (011) 726-7928

